

女性教職・教職配偶者のサポート情報誌

WOMEN IN MINISTRY

This is Our Mission ～あなたの教会の可能性を拓げる女性と男性～

「今回は全国聖会・MM33 ナショナルカンファレンス特集号です。2日目に持たれたセミナー『宣教と女性たち』に参加して下さった方々の感想やお証も満載。受け取った恵みとチャレンジを胸にさらに前進しましょう。」

三箇豊実

巻頭言

コンニチハ。私は牧師ではありません。私は社会で働いてきました。私は聖書の全ての言葉を男性にも女性にも神が語っていることに感謝します。マタイ28章の使命は男性にも女性にも語られています。出て行って弟子を作る、これは私にも語られています。牧師としてではなく、私は社会のリーダーとしての召しを与えられています。

私は非常に内向的な性格なので、こんなに多くの人の前に立って話すのは異例です。しかし私は従うことを選びました。神を愛しているからです。

私はビジネスの経営者です。私にとってビジネスの場が奉仕の場所になっています。私の人生は神のためにあります。社会で働く中での基準を明確に打ち立てました。自分の倫理に妥協しません。

飛行機に関する仕事をした時です。上司がインドネシアのお客様に対して、あることをしなさいと言いました。インドネシア人にそういう扱いをしたくない、とはっきり反論しました。そんなことを言えば仕事を失う覚悟で、上司に伝えました。上司は私を解雇するのではなく、クリスチャンのリーダーとして私の決断を尊敬してくれました。

その後、自分のビジネスを始めました。私はビジネスの世界で知られている存在でした。お客様と週の半ば、夜にも会いますが金曜日は仕事のミーティングをしません。友人が、どうして?と聞きました。セルグループがある日だからです。私は神を大切にすることを選んだのです。私は神を第一にしたので、ビジネスは今も栄えています。この世に妥協する必要は無いのです。今も私はビジネスの世界でリーダーとして働いています。

第2に、私には要求の強い夫がいます。私には仕事があり、2人の子ども、孫、91歳の両親がいます。箴言

31章の女性のように完ぺきではないけれど、私にはやらなくてはいけない沢山のことがあります。私は料理をしません、夫が料理してくれます。私は典型的な女性ではないと思いますが、自分の仕事ではリーダーです。イエス様は、仕えられるためではなく仕えるために来た、と言われました。ですから私も神の恵みに頼って、出来る範囲で仕えます。

沢山の役割がありますから私の大きな挑戦は、時間です。夫、子ども、両親、仕事、友、ミニストリー、セルリーダーのために、どうやって時間を生み出していくか。本当に挑戦です。でも私は神に献身しているので、人々に注ぎ出すことが出来ます。私は出来る限りのことをし、神が私を用いて下さいますから、全ての栄光を神に帰します。

私はスーパーウーマンではありません。しかし牧師の妻、世界 AG 議長の花嫁です。出来る限り彼のそばで仕えたいと願っています。ある人は「どうして彼と一緒に世界に行って説教しないの」と言います。30%くらい彼の世界宣教に同行します。30%は孫と一緒に過ごします。30%は父と母のために時間を使います。

夫と一緒にいない時は、彼のために祈り霊的に支えます。夫といられる時は十分な時間を一緒に過ごします。夫は舞台に私を呼んで、話をする時間をくれます。人々のために夫と一緒に祈ります。自分のリストはどんどん増えます。神は良い方なので、正しい時に、誰を励ますかを導いて下さいます。そのタイミングは最適です。このように私は主に仕えています。

皆さんの思いを遙かに超えて、神はあなたを用いることが出来ます。Thank you !



シンガポール・トリニティ・クリスチャンセンター
チン・イン夫人

目次

- 02 MM33カンファレンスレポート
- 03 MM33カンファレンスレポート
- 04 【学びのコラム】潰れないリーダーの秘訣 | 室員紹介

MM33カンファレンスレポート

「宣教と女性たち」に参加でき感謝いたします。ドミニク・ヨウ先生は、「エバはアダムを完成させるために与えられた。

ヘブライ語で『助け手(エゼル)』とは、補い、支え、協力し、前進させる存在を意味する。」と、語られました。

愛なる神様が、エバをアダムの「助け手」として創られた、深い意味を知り、理解し、御言葉に従い、キリストの体なる教会が建てあげられるよう、進みたいと思います。



米沢福音キリスト伝道所 大久保尚子

トリニティ・クリスチャン・センターでは、女性牧師たちが生き生きと働いておられる姿を見ました。ドミニク先生に、女性を励まし用いるスピリットがあるからだということを改めて感じました。

私は、Chin Inn 夫人が公で話されることを初めて見ました。彼女はビジネスを建て上げたリーダーとして、また夫を支え、子供と孫、お母さんのために時間を有効に使いながら、教会にもフルコミットしておられることに感動しました。



東京メトロチャーチ 林幸司

今回のセミナーでドミニク師が男性だけで働きをすることを「1本の足で歩くようなもの」と語られたのが印象に残りました。人に2本の足が与えられているように、神は男性と女性が補い助け合い1つとなって歩むようデザインされたことを御言葉から改めて受け取りました。私もドミニク師のように、女性を男性のための単なる助け手ではなく、男性の弱さを補い主の働きを完成させるための欠かせないパートナーとして尊ぶ視点を持ち続けたいと思います。



釜石アメイジンググレイスセンター 吉岡敬蔵

「宣教と女性たち」の分科会を通して、神様は男性も女性も、それぞれ目的をもって創造され、互いに補い合いながらキリストのからだとして仕えるよう召しておられることを改めて教えられました。特に、創世記の「助け手」という言葉が、単なる補助ではなく、共に働く尊いパートナーを意味することに励ましを受けました。主が造ってくださった自分自身を大切にしつつ、互いを尊び合い、教会が一致して主の働きを担っていけるよう、これからも仕えていきたいと思えます。



リバイバルセンターチャーチ 綾部クリスチーヌ万里子



第43回全国聖会の分科会に参加できて感謝でした。ドミニク先生のお話から「女性たちはパワフルです」という言葉を聞いた時、心の目が開かれた思いになりました。私の中にある日本人特有の「女性は控えめで弱い存在」という感覚は、時に牧会にも影響し葛藤を覚えていましたが、本来与えられている「パワフルな存在」としての自分の姿に目覚め、聖霊により解放と力を得て、主がくださる真の自由と喜びの中で宣教の働きに仕えたいと思います。



あすみが丘福音キリスト教会 岡山志伸

この度出席した分科会「宣教と女性たち」では、女性の持つ大きな影響力について学びました。女性は家庭や社会に深い影響を与える存在であり、現代の言葉で言えば“インフルエンサー”とも言えるでしょう。学部生時代、私は「日本宣教と女子教育」に関心を持って研究しましたが、多くの明治期の女性宣教師たちは、「女性が変われば日本が変わる」と信じ、女子教育を通した宣教に力を注ぎました。その働きを通して、日本社会に大きな影響を与える多くの女性たちが育てられてきたことを改めて思い起こしました。



京都教会 村上渡

ドミニク・ヨウ師、チン・イン夫人のセミナーは、聖書の視点で男女の役割を見直す内容でした。女性は男性を補い完成させる「助け手（エゼル）」であり、1コリ14:34の「女の人は教会では黙っていなさい。」という記述も教育格差という背景によるもので差別ではない、と解き明かして下さいました。男性の論理と女性の共感という互いの特性を活かし、画一的なジェンダーフリーではなく神の国の文化を歩む。それこそが真の祝福と前進に繋がると学びました。



御影神愛キリスト教会 種村龍

ドミニク・ヨウ師はこのセミナーにもっと多くの男性に出席してほしいと開口一番言われました。それは、女性の働きを最も阻止しているのが男性であり、男性も女性も間違った神学を受け入れ続けてきたことから解放され、神の言葉を正しく理解し、変革する必要があると師は言われました。男性は女性により初めて、完成された存在となるのに、男性は女性を単なる、男性に仕えるための助け手としての理解に留まり、また、当時の文化的な慣習を「神学」としてしまい、女性の立場を男性よりも劣る存在と捉えてきた歴史があります。神の創造の目的のもとに、男性と女性は働きや役割が違うというだけのものであり、優劣のある男女の存在ではなく、宣教のパートナーとしての存在であり、神の国のために働く偉大な助け手として女性を創造されたことをはっきりと教えられました。



深谷福音キリスト伝道所 井桁久志

聖書の言う「助け人」という立場を理解し日々歩んでいたつもりでしたが、私の心の中に『夫よりも前にはいけない。目立ってはいけない』という思いがあったことに気づきました。こんな私にも日本古来の文化的な影響があったのです。

ヘブル語で助け人とはパワフルでパートナー以上の力強い言葉、エバは男性を完成させる存在である。という言葉に感動しました。なのでいただいた賜物を生かして今後も喜んで歩いて行きます。『宣教と女性たち』というテーマで圧倒的に女性の参加が多かったのですが、ぜひ男性の方にもアーカイブでご覧いただきたいと願います。



せとうちキリスト教会 越智博子

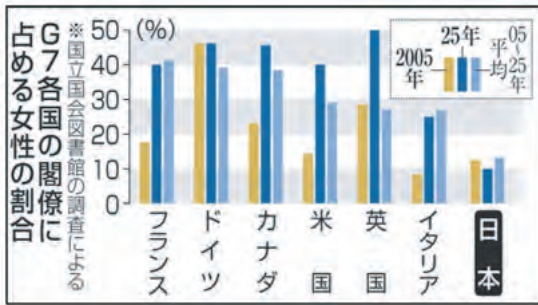


潰れないリーダーの秘訣



室員：野川悦子

高市早苗氏（1961年生）は、昨年10月に、日本初の女性の内閣総理大臣になりました。女性の社会進出は増えていますが、まだまだ最終意思決定層における男性比率は高いというのが日本の現状です。特に政治の世界では、今も閣僚20人中、首相を加えて女性は3名に留まっています。G7の中でも、女性の政治参加において日本は最下位でした。2024年時点で、G7の平均では女性議員比率が約30%前後であったにもかかわらず、日本は15~16%程度です。



このような中で、女性が総理大臣になったということは、私にとっては大きな驚きでした。「あと10年はかかるのではないかな？」あるいは「米で女性大統領が誕生した後に、日本でも女性のリーダーが生まれるのではないかな？」と思っていたからです。

高市氏を見、同じ女性として一国を背負っていく、その気概に敬服しています。多くの女性は、リーダーになることを躊躇するでしょう。理由は様々あります。毎日が忙しくて時間がないこと、能力のないと感じていること、健康や体力への不安、責任の重さ、孤独感、そして誹謗中傷への恐れなどを感じるからです。私は高市氏が「こ

のような重圧を、どのように克服しているのだろうか。なぜ潰れないのだろうか」と興味を持ちました。

AIの分析はこのようなものです。

- 1) 評価よりも使命を軸にしている。人に「認められたい」ではなく、「自分が正しいと思う国家観や政策を実現する」ということを軸にしている。
- 2) これまでの経験によって鍛えられている。
- 3) 批判された時、感情的に飲み込まれず、必要な情報だけを分析し、残りは捨ててしまうことができる。
- 4) SNSを自分で全部読まない。側近が整理している。
- 5) 少人数でも、深く信頼できる人がいる。

これらは皆、私達にも必要だと思います。

私達も人がどう思っているのかを気にし易いのではないのでしょうか。どこかに根深く、人に認められたいという思いがあるような気がします。唯々神様を見続けたいのに、人や問題に心を奪われます。でも人や起こっている物事ではなく、神様から与えられた「使命」を思い続けたいのです。「自分は今、何を成すべきか」「神様から何を成せと言われているか」を、ことあるごとに思い起こし、これを優先にしましょう！そうするなら、きっと捕らわれていた人の目から解放されることでしょうか。私達の使命は「魂の救い」と、「神と、(自分を含む)人を愛する」ことを通して栄光を表すことです。それぞれに与えられている神のビジョンに進むことです！

世の中の女性はリーダーになるために立ち上がっています。

あなたも主の為に立ち上がりませんか？

教職局 女性活躍推進室 室員紹介



室長
三箇豊実



室員
野川悦子



室員
中里恵美



室員
林恵美子



室員
上田 恵美子



室員
本田基枝